

ヤングプロフェッショナルフォーラム(YPF)ラウンドテーブルディスカッション報告

株式会社日水コン 海外事業部 業務部長

国際活動委員会委員 桜井 一

八千代エンジニアリング株式会社 国際事業部 環境水資源部

水野 直人

1. はじめに

ヤングプロフェッショナルフォーラム(YPF)は、優秀な若手のコンサルティングエンジニア(CE)産業及び FIDIC の諸活動への主体的参加を将来にわたり促進していくため、①FIDIC を担う次世代の育成、②FIDIC の運営に対する若い世代の意見の反映等、を目的とする。

YPFは2000年のハワイ大会での若手エンジニアのラウンドテーブルディスカッション(RTD)を契機に設立され、続く 2001 年スイス大会での RTD、FIDIC ウェブサイト及びメーリングリストでの議論といった活動を経て、昨年、FIDIC の正式なフォーラムとして承認を得た。

2. 会議概要

本会議には、日本、および大会のホスト国であるメキシコをはじめ、デンマーク、南アフリカ、英国、スペイン、中国、ナイジェリア、スウェーデン、韓国、ジンバブエ、タンザニア、オランダ、ニュージーランド等、15 カ国 30 名以上が参加し、モデレーターに桜井、副モデレーターにニュージーランドのヴィンク氏、レコーダーにメキシコのサラザール氏の 3 名の進行のもと、4 名の基調プレゼンテーション、15 名前後のグループに分かれてのラウンドテーブルディスカッション、全体会議という流れで活発な議論を展開した。(表参照)

表 YPF Roundtable 議事次第

INTRODUCTION	
1:30-1:35	Introduction by Sakurai
1:35-1:45	Greeting by Mr. Meghji
KEYNOTE PRESENTATION	

1:45-2:50	Keynote Presentations
2:50-3:00	TOR & Action Plan
ROUNDTABLE DISCUSSION	
3:00-3:45	Roundtable Discussion
3:45-4:00	Coffee Break
PLENARY SESSION	
4:00-4:20	Group Leaders Presentation
4:20-4:50	Open Discussion & Finalization of TOR & Action Plan
4:50-5:00	Looking Ahead (FIDIC-2003, Paris)

また、本会議においては YPF 組織委員会より、TOR とアクションプランの提示がなされ、これについても活発な議論がなされた。

次項より、議事次第に沿って各発表及び討議の概要を述べる。

3. イントロダクション

会議の冒頭では、進行役の桜井からイントロダクションとして、YPF の目的やこれまでの経緯等のブリーフィングが行われた。

次いで、エグゼクティブコミッティー(EC)のメンバーである Meghji 氏が挨拶に立ち、EC において YPF の活動が評価されている点、EC としても FIDIC 大会へのヤングプロフェッショナル(YP)の大会参加を促す方策を模索しており、来年のパリ大会では YP の大会参加費の減額を考慮している点などが伝えられた。



4. 基調講演

本会議では、YPF としては初めて基調プレゼンテーションが行われた。プレゼンターは、YPF 組織委員であるマガラ氏(ジンバブエ)、ラングセス氏(スウェーデン)、ザン氏(中国)の3名(ザン氏は本会議には欠席となったため、代理としてヴィンク氏が講演要旨を説明した)と YPEP の研修生である水野である。

各発表概要は以下の通りである。

(1)レオナルド・マガラ氏：“Being a Young Consulting Engineer”

マガラ氏は、その求められる知識、技術のレベルという側面から「ヤング・コンサルティング・エンジニアとはどうあるべきか」について述べた。

また、エンジニアを志す若者(ここでは、主にシビルエンジニアを念頭においていたと思われる)にとっての career path として、政府/自治体組織、CE、コントラクター、研究機関の4つを挙げ、それぞれについての利点を列挙した。

その中で、エンジニアにとっては報酬や待遇といったものだけでなく、技術の研鑽や先端技術を駆使して仕事を行うことが重要である点に触れ、現在、エンジニアリング市場で求められている「ソフトとハードの融合」について、FIDIC 及びMAsがエンジニアをアシストする活動をさらに積極的に行うことを提言した。

(2)水野直人：“Capacity Building through Young Professionals Exchange Program (YPEP)”

水野は、日・豪/NZ で1996年より行われている交換研修制度(YPEP)について、自身の経験を交えて概要説明を行った。

また、研修生に対しアンケート調査を行い、その結果から、同制度が研修生、企業(ここではホストカンパニーと研修生の所属企業の両者を指す)、各国協会にとって以下のような利点があることを明確にした。

- ・研修生 : 技術面だけでなく、様々な側面で知識、経験を広げることができる。
- ・企業 : 相手国企業との関係を築ききっかけとなる。
- ・協会 : FIDIC 及び協会の活動への Young Professional の参画のきっかけとなる。

さらに、水野は、FIDIC の更なる活性化のために、同制度を FIDIC 年次大会のプログラムに導入することを提案した。



(3)リサ・ラングセス氏：“How Do We Attract the Young to “Our” World?”

ラングセス氏は、スウェーデン国のエンジニアリング業界において、35~50歳までの就業者数が非常に少なく、今後7~8年の間に約3,000人もの退職者が出るという現状について述べ、2001年にスウェーデン YPF が発足したことと、その活動について説明した。

スウェーデン YPF は、28~35歳の14名のエンジニアによって構成されており、CE 企業の SWOT (S = Strengths、W = Weaknesses、O = Opportunities、T = Treats) 分析、その結果を元に”How do we become better employers?”と題したガイドラインの作成を行っている。

また、エンジニアリング業界の問題点として「社会認知度の低さ」、「人材の流出」の2点を

挙げ、教育機関との連携、社内教育プログラムの重要性等について言及した。

(4) ザン・ジャンフェイ氏：“Motivating Young Engineers”

中国では、近年の急激な経済成長により、建設事業も急ピッチで進められており、エンジニアの需要も高い。従って、優秀な人材の確保が同国の CE 企業にとって重要であり、ザン氏の所属する研究所においては、様々な取り組みを行っている。

ここでは、その例として、以下の2つが述べられた。

- ・ 研究所の指針となる5カ年計画の策定につき、全てのスタッフが参加し、議論を行った。
- ・ 研究所内の公選制による昇進

上記の4名のプレゼンテーションペーパーに加え、英国のノラ・ファンク氏より、同国で行われているヤング・プロフェッショナル・ネットワークの紹介があった。これは、2001年に発足した学生を含む19～35歳のエンジニア300名から成るネットワークで、ビジネス・スキル等の情報交換やウェブ・イベント等を行っているものである。

次いで、ヴィンク氏より、TOR 及び短・中・長期アクションプランについて、YPF 組織委員会のドラフトが説明された。

Terms of Reference

1. To assist the EC on matters related to vitalization of Young Professionals in FIDIC activities.
2. To organize e-mail and/or web forum discussion on matters related to Young Professionals.
3. To liaise with committees and task forces related Young Professionals.

Draft Action Plan

Short-term (1st and 2nd years)

1. Continue mail discussion on strategic issues on YPF
2. Establish Web-based discussion environment
3. Establish system of YPF member registration on Web site

4. Proposal of YPF assisting program (financial assistance for attending the conference) to EC & MA

Mid-term (3rd to 5th years)

5. Organize Regional Group YPF
6. Strengthening of activities (capacity building program, liaise with FIDIC regional group activities, etc.) by each regional group
7. Realization of post conference tour for YPF in FIDIC conference

Long-term (6th years and after)

8. Regional group meeting
9. Sub-grouping of regional group
10. Send representative of YPF to EC

5. グループディスカッション

本会議のラウンドテーブルディスカッションでは、参加者を2つのグループに分けて、ディスカッションが行われた。

主な討議内容は以下の通りである。

1. CE 産業における YP の活性化とその弊害要素
2. 各 MA における YP 育成活動
3. YP 育成活動を強化するために政府、MA、企業に求められるもの
4. FIDIC がいかに YP をサポートしていくか

6. 全体会議

全体会議の冒頭では、各グループにおいて討議された結果を、各グループの代表が発表し、相互理解を深めた。

次いで、全体会議において質疑応答を行った後、レコーダーのサラザール氏が以下のように会議全体のまとめを行った。



それに伴い、これまで YPF 運営の中心として活動してきた AJCE の役割は益々増加すると考えられる。皆様の更なる御理解、御協力および御指導をお願いしたい。

社会認知度の向上：いずれの国においても CE の認知度は低いといえる。したがって、FIDIC、MA、企業のそれぞれが認知度向上のための活動、特に学生に向けての活動が必要である。

IT 技術の活用：e-mail やウェブ・フォーラムでの議論を活発化すると共に、関係する他のサイトへのリンク等によって、活動を広く展開する。

FIDIC 活動へのインセンティブの向上：YP 向けのプログラムや助成金等により、YP の FIDIC 活動への参加を促進する環境を整備する。

会議の最後には、来年のパリ大会準備委員会のメンバーであるカリーン・ルヴェーガー氏から、FIDIC-2003 における YP の役割として、同大会で行われるワークショップの全てに YP が参画し、ワークショップで議題となる諸問題に対し、YP の視点や役割といった観点から議論を進められるようプログラムを策定している旨が発表された。

7. おわりに

今大会の YPF は、FIDIC の正式フォーラムとしては初回にあたるが、3 時間半にわたって活発な議論が展開された。

また、ハワイ大会での RTD から 2 年が経過したことになるが、YPF での議論、提案が EC を始めとする FIDIC 本部や MAs に浸透してきていることが感じられた。

来年のパリ大会では、YP の参画による FIDIC 活動の活性化に向けた具体的なアクションが行われることとなる。